

環境省 生物多様性情報システムJ-IBIS

- 環境省生物多様性センター(運営主体)業務
 - － 自然環境調査(自然環境保全基礎調査など)
 - － 生物多様性に係わる資料・標本の収集管理
 - － 生物多様性に係わる普及啓発、国際協力
- 生物多様性情報システムJ-IBIS
 - － 自然環境保全基礎調査の成果をはじめとする生物多様性情報の収集・管理・提供を行うシステム
(自然環境保全調査費)
 - － 月平均アクセス数407万件(平成27年度実績)

生物多様性情報システムJ-IBIS 構成

生物多様性情報システムJ-IBIS



調査自体の説明、調査結果・報告書等を提供

いきものログ



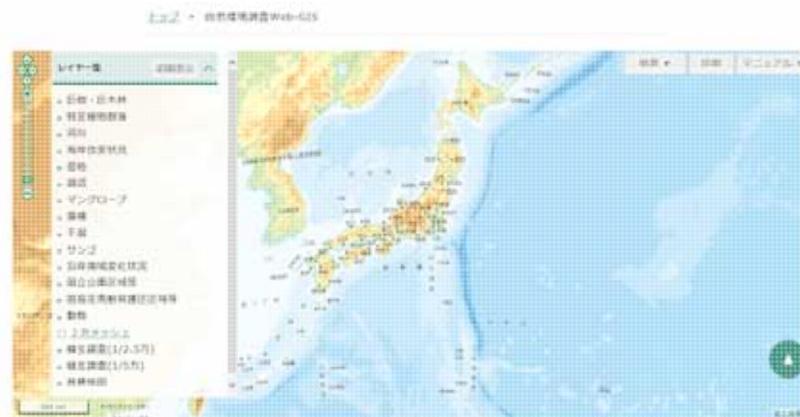
一般の方たちからの観察・目撃情報等、生物情報収集提供

インターネット自然研究所



国立公園等設置のライブカメラ画像を配信

自然環境調査Web-GIS



調査結果を分かりやすくWeb-GISで表示

生物多様性情報システムJ-IBIS概略

- 提供するデータ種類や内容について
 - 当センターによる調査等データ・報告書、ライブカメラ画像、一般の調査報告(いきログ等)、GISデータ。
- 利用ユーザと種別
 - 一般・民間等。ユーザ区分はない(いきもののログ以外)
 - いきもののログ登録ユーザ:2,491名(H29.1現在)
- 公開データポリシー
 - 掲載内容は自由に利用可としている(一部コンテンツ除)。
- サーバ概要 Web/APIと各サブシステムDBで分離。
1CPU/12コアないし8コアのH/Wでサーバ構成。
- DL件数(GISデータ)の推移
 - 4,691件(昨年4-6月)、5,281件(同7-9月)、4,470件(同10-11月)

地球規模生物多様性情報機構 (GBIF)

事務局はコペンハーゲン (デンマーク) に設置されており、地球規模の生物種に関する観測データを一元的に管理している。2017年1月現在、約7億件の生物多様性データが公表されている。

[参加国・機関]

・参加国: 57か国(米、独、仏、英、韓国、豪、オランダ、ベルギー、日本、等)及び39機関(ASEAN Centre for Biodiversity; ACB等)、計96の国・機関が参加。

[データポリシー]

・オープンデータのため利用者に制限は無い。

[データの蓄積]

・各国の拠点(ノード)を経由してデータを収集。日本国内のGBIFに関する活動は文部科学省(ナショナルバイオリソースプロジェクト)の資金的支援を受け、日本ノード運営委員会によって運営され、GBIFへの日本からのデータ提供は、国立遺伝学研究所及び国立科学博物館が担当している。

GBIFの活動に拠出し、
生物多様性情報の集積・共有・自由な
アクセスと利用の促進を支援

